

県立宝塚北高等学校 平成28年度 学校評価

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

領域	重点目標	具体的な取組	学校自己評価 中間・年間	生徒	保護者	改善の方策	学校関係者評価〔評価及び改善の方策に対する評価〕	
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 ホームページの更新の頻度を上げ、最新の情報を提供する	A	A	B	B	今年度は、一般的な内容はホームページ本体に、日々の新鮮な情報は「北高ダイアリー」に掲載した。生徒・保護者に本校の教育活動の様子が、より伝わるよう心がけた。	A ホームページは見やすく、更新されていくので、よく分かり、動画もあって宝塚北高校へ行きたいと思う中学生が増えるのではないかと。
		2 生徒が活躍する場を提供し、学校説明会を充実したものにす	A	A			例年通りの活動が適切に行われた。来年度も継続していく。	A さらに充実したものを実施して欲しい。
	危機管理体制の確立	3 防災HRの実施や内容を工夫した避難訓練を通して職員・生徒の防災への意識の向上を図る	B	B	B		来年度は避難訓練の実施時期を4月に、防災教育(全校集会)を7月に予定し、さらなる充実を図りたい。	B 最近、地震が発生しているため、生徒に対してより具体的な対策ができるようにしてもらいたい。
		4 職員間の連絡を密にしたり、いじめアンケートを実施するなど生徒情報の共有を図り、対応できる体制づくりを目指す	C	B			いじめ防止基本方針・いじめアンケート実施時期と内容の見直しを行う。	A 生徒の心理状態をとらえての教育を丁寧に実施してほしい。
	地域・家庭・関係機関との連携	5 三者懇談、保護者懇談会を通して学年・学級の取組に理解を図り、保護者との連携を深める	A	A		B	7月の三者懇談、5月と10月の保護者会を実施するとともに、必要に応じて家庭との連絡をとった。また、学年通信では、学校での生徒の様子を伝えるように心がけた。(1年) 7月に三者懇談、5月と10月に保護者懇談会を実施した。懇談会以外にも、必要に応じて家庭との連絡を密にしていきたい。(2年) 「通信」を毎月発行してはいたが、保護者の方の欲しい情報とどの程度関連しているかは非常に気にしていた。学校側の一方的な思い込みの「通信」にならないような方法や工夫が必要かとは思う。(3年)	A すべてを学校に任せるのではなく、家庭と協力しながら取り組んできているようなので、今後も継続してもらいたい。
			6 ボランティア清掃や体育大会等を通して、本校の取組への理解を図り、地域との連携を深める	A	B			本年度のボランティア清掃は雨天の中実施した。来年度も継続して実施していく。
学力向上と進路実現	職員の授業力・資質の向上	7 研究・公開授業や大学の入試問題検討等を通して、教員の授業力の向上を図る	B	B	B		昨年度と同じ活動を行った。研究授業・公開授業の回数を増やすことを考えたい。	A 分かる授業の実施を目指してほしい。
		8 校外研修の発表会等校内での研修の充実を図り、初任者の育成を進める	B	B			例年以上の校内研修を実施することはできなかった。	A 兵庫県の人材を大切に育成してもらいたい。
	すべての生徒の学力向上	9 3年間を見通して補習を計画的に実施し、生徒の学力向上を進める	A	B			年度当初、各学年による昨年度の振り返りをし、それを共有した。年間補習計画も立てたが、もう少し具体的に内容を定める必要があった。	A 塾に行かなくても生徒の進路実現ができるような補習をしていることはすばらしいと言える。
		10 量・質のバランスに配慮した課題を与え、家庭学習の充実を図る	B	B	C	C	生徒から見ても適切な量・質の課題となるように、教科間・学年間の連携を一層図りたい。	A 生徒と保護者とは、質問の意味の取り方が違うのではないかと。そのため、質問を検討していただきたい。
	総合的な学習の時間の充実	11 目標(取り組み姿勢、社会性、考える力、発表する力)を明確にし、取組を公開することで内容の充実を図る	B	B			例年通りの取組を行い、次年度のオリエンテーションに向け、発表会のビデオ撮影を行った。	A これからの日本を担う生徒に対して、主権者教育を充実させたものにしてほしい。
	進路指導の充実	12 生徒個々が将来の姿を考える機会となる講演会等を企画し、キャリア教育の充実を図る	B	B		B	各学年と協力して、生徒の進路意識を向上させる取組ができた。	A 進路が決まるまで面談を実施していることは、保護者にとって安心感がある。
13 利用しやすい進路指導室にして利用頻度を上げ、1年から進路に対する意識の向上を図る		B	B	C		3年生ばかりが利用していた。進路指導室前の資料の持ち帰りが少ないのは、こちらからのアナウンスが不足しているかもしれない。	A 全生徒が利用しやすい環境づくりをお願いしたい。	
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	14 読解力・思考力を高める特別講義等を通して、基礎学力の向上に努める	B	B			特別講義の予算が少なく、単発的にしか実施できていない。3年間を通して、計画的に実施する必要がある。	A 1年の5月から実施している朝の読書はよい取組である。継続してほしい。
		15 専門科目等を通して対話力・表現力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図る	A	B	A	A	専門科目間や特別講義との有機的連携を図る必要がある。	A 専門科目間や特別講義との連携をさらに図ることを期待している。
	GS科の充実	16 シアトル研修を通して英語コミュニケーション能力を開発し、「世界」を意識させる	A	A			GSコースの実績とGS科としての新しい試みが進行中である。	A GS科としての新しい試みが楽しみである。
		17 高大連携事業を通して、「学び」の意識の向上を図り、自らの将来像を考える機会とする	A	B			質問に工夫が必要となった。これらの事業の評価は、短期で定まるものではない。特に生徒の自己評価や保護者の評価は「できたような感じはする」という程度の印象評価にとどまるのはいたしかたがないのではないかと。	A 質問の問い方について来年度検討していただくようお願いしたい。
	18 課題研究の取組を通して、自主的研究活動を促進し、思考力・判断力・表現力の育成を図る	B	B	B	B			A
	ふるさと貢献活動事業の充実	19 養護学校等との交流を通して思いやりの心を育むとともに、自己有用感の向上を図る	B	B			本年度も例年通りに2回の交流を予定したが、残念ながら1回はインフルエンザの影響で実施できなかった。来年度も継続して実施していく。	A 今後も継続して実施することを期待している。
国際交流事業の充実	20 提携校等との交流を通して、世界の中の日本、日本人のアイデンティティについて考える機会とする	B	B			本年度、14名の生徒が海外研修に参加、また、オーストラリアから10名の生徒を受け入れた。交流に参加した生徒には、世界を考えるよい機会となったと思う。	A 今年度の課題と反省を次回に活かしてほしい。	
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	21 授業開始時の挨拶、校門指導を通して、「時間を守る」ことへの意識の向上を図る	B	B	B	B	例年以上の取組を実施することはできなかった。(教務部)  バスの乗車人数の緩和のために時差登校を継続し、遅刻を減らすようにする。(生徒指導部)	A 来年度は例年以上の取組を実施することを期待している。  バスの乗車マナーについては、生徒は他の乗客を優先させたりするなど評判がよい。
			22 HR、「総合的な学習の時間」、行事等で、障害者や高齢者等異世代の方との交流を通して、人権意識の向上を図る	C	B	B	A	例年通りの活動が行われた。それだけでなく、今年度人権教育の訪問指導を受けたので、その反省を活かして 来年度も継続して実施していく。
	図書館利用の推進	23 「図書だより」を発行することによって、図書館の利用を啓蒙して、利用頻度の向上を図る	B	B	C		「図書だより」を月1回発行し、本は生徒のリクエストを重視して入れている。しかし、図書室に来た生徒が、夏は暑すぎる、冬は寒すぎると言って図書室から出て行ってしまふ。図書委員会でもその性が改善してほしい点としてあがっていた。	B 予算的に難しいかもしれないが、図書室の環境整備をお願いしたい。
	保健・健康教育の推進	24 講演会等を通して、保健・健康教育の充実を進め、自分自身を大切にする心の育成を図る	B	B		B	生徒の自尊感情を高める為に、生徒への講演会だけではなく、保護者への講演会も検討していきたいと考えている。	A 高校生の心理状態をとらえた教育を実施してもらいたい。
		25 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題への早期対応ができる体制を整える	B	B			教育相談委員会を昨年までは開いていたが、カウンセリングの希望者が多くなり、教育相談委員会を開く時間が取れなくなった。そのため、来年度については、カウンセリングの回数を増やしていただくように申請中である。	A さまざまな生徒への丁寧な対応を今後もお願いしたい。
	生徒会活動の充実	26 集会の集合等、生徒自らが動く機会を与え、自主的に考え、活動する機会の充実を図る	B	B	B	B	全校集会においては生徒会中心に集合指揮が定着した。学年集会においても生徒主体で集合等の指示を定着させたい。	A 文化フェスティバルのクラス劇は、生徒の自己表現の場としてよいので、継続して実施してほしい。